

Ⅱ 中間育成

1 方 法

中間育成は種苗生産に使用した100㎡円形水槽（底面積、約80㎡）用いて行った。水槽底には塩ビパイプ製の枠（100×150cm）にキンランを20本結び付けたものを41組設置してシェルターとした。

餌料はクルマエビ用配合餌料5～7号を使用した。給餌量は推定総体重の30%とし、これを朝夕2回に分けて給餌した。

中間育成中はエアーストーン10個による通気を行い、生海水を換水率が300%程度になるように注入した。また、潜水による観察・底掃除を隔日毎に行った。

2 結 果

今年度は2回次と3回次で種苗生産したC₁稚ガニの中間育成を行った。1回目は6月28日～7月9日、2回目は7月30日～8月11日の期間で、それぞれ11.4万尾、4.2万尾を収容して開始した。収容開始密度が540～1,450尾/㎡と低いこともあり、取り上げ時の生残率は35～62%と比較的高かった。2回の中間育成で合計6.5万尾のC₁～C₂を生産した（表4）。

表4 平成5年度タイワンガサミ中間育成結果

育成番号 (生産番号)	育成期間	水槽容量 (㎡)	収 容		取り上げ		生残率 (%)	シェルター
			(万尾)	(尾/㎡)	(万尾)	(尾/㎡)		
1-1 (2-5,6)	6/28~7/9	100	11.4	1,450	3.9	500	34.5	きんらん、410本
2-2 (3-8,9)	7/30~8/11	100	4.2	540	2.6	330	61.5	"
計		200	15.6		6.5			